

# 甲斐市立双葉東小学校 自己評価書

令和7年2月6日(木) 作成

校長 「窪田 正幸」 記述者 職名(教頭)「花形 健一」

学校教育目標 『やさしく かしこく すこやかに』

- (1) 心豊かで 思いやりがある子ども
- (2) 自ら学び 自ら考え 行動する子ども
- (3) 心身共に健康で安全な生活をめざす子ども

学校経営目標

- (1) 生きる力の育成 ～心の教育を基軸に「知・徳・体」のバランスよい育成～
- (2) 学校・家庭・地域の連携 ～開かれた信頼される学校づくりの推進～
- (3) 教職員の資質向上 ～教師こそ最大の教育環境であることを意識した実践～

学校経営の基本方針

- (1) すぐれた伝統を尊重し、児童や地域社会の実態を把握し、学校教育目標の具現化に努める。
- (2) 豊かな心の育成に向けて、豊かな人間性とその基盤となる道徳性を育てるために、研究・実践に当たる。
- (3) 確かな学力の定着に向け多様な指導方法を工夫し、日頃の教材研究を十分行い、学ぶ喜び分かる喜びを味わわせると共に、基礎・基本の確実な定着を図る。
- (4) 体力の向上、健康な身体づくりのために、体育の授業の充実、業間時間の外遊びの推奨、疾病・怪我から身を守る力の育成等を図る。
- (5) 児童集団の中に起こる様々な問題・課題に対して、子ども自らが気づき、解決に向け発言し、集団の向上・発展に向かって立ち上がる指導を通して、集団づくりを行う。
- (6) 不登校やいじめ等児童の課題に対して、担任一人だけの悩みとせず、学年体制、全校体制など組織的な対応のもとに適切な支援・指導を行う。
- (7) 教育課程の編成・実施・評価・改善のシステムを大切にし、それらが相互に働くように努める。
- (8) 学校の施設・設備、地域素材・地域の人材を活用し、幅広い教育活動を展開し、児童の生きる力の育成に努める。
- (9) 児童の安全確保と学校の安全管理の充実を目指して、教育環境を整備し、明るく楽しい学校づくりと児童の健康・安全教育を推進する。
- (10) 特別支援学級の経営及び特別な支援を必要とする児童の共通理解と適切な指導に努める。
- (11) 学校・家庭との信頼関係を大切にしながら、児童の良い点や課題について、共に考え合い育てるといった基本的な関係を踏まえて、適切に情報交換する。
- (12) 教職員は常に課題意識を持ち、常に前進・向上を求めて研修・実践に努める。
- (13) 教職員が互いに協力して、社会一般からの要請事項に応えられる職場環境作りに努めながら、子どもたちに向き合う教育活動に専念できるようにする。
- (14) 開かれた特色ある学校づくりを推進するために、学校の情報を的確に保護者・地域に発信しつつ、家庭や地域社会との連携や学校評価システムの効果的運用を図り、教育効果を高める。

本年度の努力点

- (1) 誰にでも居場所があり、学び合う学級集団づくりの実践
- (2) ICTも活用した楽しく、わかる授業の実施
- (3) いじめ、不登校、特別な支援を必要とする児童等への効果的な支援・指導の実践
- (4) 働き方への社会的要請事項を踏まえた、教育活動・職場環境づくりの実践
- (5) 安心安全な学習環境づくりの実践(感染症対策を含め、安心して学べる環境づくりの実践)

## 1 全体評価 回答 A：とてもそう思う B：そう思う C：ややそう思わない D：そう思わない E：わからない

### 【教職員】

- いくつかの設問において、否定的回答（C・D）が若干数あるものの、全設問における肯定的回答（A・B）の平均が96.4%（R5 96.1%）と高い評価結果である。全教職員による学校教育目標の具現化に向けた取組がなされていると言える。
- 令和5年度に評価の低かった「あなたは、ICTを効果的に活用した授業を行っている。」は80.0%から91.7%と大幅に改善されている。校内研究でICT活用をテーマに取り組んできた成果が見て取れる。
- 以下の設問については、他の設問と比較し評価がやや低いので、改善を図っていく必要がある。  
「あなたは、キャリア教育（キャリアパスポートの活用・進路指導など）を児童生徒の実態に応じて行っている。（77.2%）  
「あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を利用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。」「あなたは、PTA活動に積極的に参加している。」（82.1%）

### 【保護者】

- 全体的にB回答が多いものの、学校の教育活動に関する設問（☆の項目）では、肯定的回答（A・B）の平均が80.8%（R5 84.1%）であり、昨年度に比べ微減ではあるものの、保護者の学校の教育活動に対し、ある程度の信頼がうかがえる。肯定的回答（A・B）の割合が低い設問（「学校は、心の教育に力を入れて取り組んでいると思う。」）については、わからない（E）の割合が肯定的回答（55.5%）の次に多い結果（25.4%）となっている。
- PTA活動については、肯定的回答（A・B）が44.4%（R5 43.5%）という結果となっている。PTA組織がスリム化され、基本的に希望性による保護者ボランティアという活動の形態が結果に反映しているものと思われる。
- 家庭の教育活動に関する設問（○の項目）では、肯定的回答（A・B）の平均が75.4%（R5 77.2%）となっているが、家庭内での挨拶・朝食に関する設問では96%以上の肯定的回答なのに対し、読書に関する設問では42.3%と、設問により結果にばらつきが見える。

### 【児童】

- 肯定的回答（A・B）の平均が88.9%（R5 89.7%）と高い評価であり、児童の徳知体を育む本校の教育活動において、伸び伸びと学校生活等を送っている様子が窺える。
- 学校生活に関する項目で、A回答の割合が80%を超えた設問は、「先生はよく勉強を教えてくださいませんか。（84.3% R5 82.4%）」「こまったことがあったら、相談できる先生がいますか。（80.8% R5 81.2%）」の2つである。一方で、全ての項目で少数ながらD回答を選択した

児童がいることにも注目したい。すべての設問において、否定的回答（C・D）が減り、A回答の割合が多くなることを目指したい。

**【保護者・児童】**

<挨拶> ※「（％）」の数値は、肯定的回答（A・B）の割合

**【保護者】**「学校は、子ども達に学校以外でも挨拶をするように指導していると思う。」

（69.6％ R5 72.9%）

「ご家庭では、お子さんに進んで挨拶をするように言っていますか。」

（88.1％ R5 87.5%）

「ご家庭では、家族で互いに挨拶をしていますか。」（96.5％ R5 97.3%）

**【児童】**「だれとでもあいさつをしていますか。」（86.9％ R5 85.8%）

○学校では、児童会活動で朝の挨拶運動に取り組んだり、PTA活動においても挨拶・声かけ運動を行ったりしているが、地域での挨拶が少ないとの意見もいただくことがあることから、旗振り当番の保護者や地域の見守りボランティアの方々にも元気よく挨拶ができるよう、今後も地道に指導を継続していく必要がある。

○家庭での生活において改善したい設問は、以下の通りである。

・「お子さんは家で平日一日あたりどのくらいの時間、読書をしていますか。」

**【保護者】**全くしない…43.9％(R5 39.7%)

**【児童】**30分より少ない・全くしない…54.0％(R5 57.9%)

・「（お子さんは）スマホ・タブレット・ゲーム機・パソコンを、学習以外で、一日あたりどのくらいの時間、使いますか。」

**【保護者】**2時間以上…39.5％(R5 35.9%)

**【児童】**2時間以上…47.5％(R5 48.0%)

・「朝ごはんを食べて登校していますか。」

**【保護者】**「あまり食べていない。（23人 R5 10人）」「食べていない。（2人 R5 4人）」

**【児童】**「あまり食べていない。（19人 R5 19人）」「食べていない。（16人 R5 13人）」

・児童アンケート「月曜日から金曜日までは、何時くらいに寝ますか。」の設問では、「午後11時以降」と回答している児童が、32人（R5 21人）である。

2 設問ごとの評価結果（達成状況・改善策）	
I 学校教育目標に関して・学校経営について	
達成状況	<p>○肯定的回答（A・B）の割合は、99.5%（R5 99.2%）である。「学校教育目標」「学校経営」について、教職員全体の共通理解が図られ、教育活動が行われていると言える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「あなたの学校は、特別支援教育の体制を整え、全職員の協力の下教育活動を行っている。」の設問は、1人がC回答であり、他の設問は肯定的回答（A・B）が100%である。</li> <li>・「あなたは、PDCAサイクルを生かした教育活動を行っている。」については、唯一、A回答よりもB回答の割合が上回っている。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「あなたの学校は、特別支援教育の体制を整え、全職員の協力の下教育活動を行っている。」の設問は、A回答の割合がB回答の割合を上回っていることから、特別支援教育に対して、校内組織の適切な運営に向けた、全職員の協力体制の確立と意識向上に取り組む。</li> <li>◆「あなたは、PDCAサイクルを生かした教育活動を行っている。」の設問は、今年度より取り入れている学年経営研究会の時間を活かして、学年でも振り返りの時間をとりながらより良い教育活動を行っていくことができるよう、組織としての対応を徹底していく。</li> </ul>
II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<p>○肯定的回答（A・B）の割合は、96.6%（R5 96.1%）である。教職員がチーム双葉東小の一員として、協働しながら学校運営に参画していると言える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「あなたは、危機管理マニュアルを理解している」「あなたは、他の教職員と連携して協働体制で、教育活動にあたっている。」「あなたは、個人情報保護・情報セキュリティの観点から、諸表簿や文書、記憶媒体を適切に管理・活用している。」「あなたは、職務上『報告、連絡、相談、確認』を行っている。」の4設問は、肯定的回答（A・B）が100%である。50名を超える職員数であるが、個々に規律を守りつつ、情報共有を図りながら、チームとして連携して教育活動に当たれていることがわかる。</li> <li>・以下の設問については、否定的回答（C・D）が見られる。  「あなたは、校務支援システムを十分活用できている。」の設問は、D回答が1人。  「あなたは、校内研究（研修）に主体的に関わっている。」C回答が1人。  「あなたは、業務の効率化等の働き方改革を意識して職務にあたっている。」「あなたの学校は、職員の適性や能力に応じた、校務分掌組織になっている。」の設問は、C回答が3人。</li> </ul> <p style="text-align: center;">※「（%）」の数値は、肯定的回答（A・B）の割合</p> <p>【保護者】「お子さんにとって、学校は楽しいところだと思う。」（90.1% R5 89.7%）</p> <p>【児童】「学校は楽しいですか。」（90.6% R5 91.9%）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が児童にとって好意的な場所となっていることがうかがえる。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆校務支援システムの有効活用、優先順位を決めた業務の遂行をいっそう推し進める中で、より一層の働き方改革に努め、教職員が本来の業務に専念できる環境をさらに整えていく。</li> <li>◆今年度も研究主題、副主題は継続しつつも、特に授業だけでなく家庭学習においても、ICT機器の活用推進を図る校内研究を行ってきた。全体としてICT機器の活用場面も活用方法も実践の積み重ねにより充実してきているが、個々の職員でICT機器活用スキルに差があることも事実なので、今後も研究主任を中心に、主体的に研修に関わる姿勢が維持向上できるように努めていく。</li> <li>◆分掌組織については、労働環境の健全性を維持するという意味で年度途中での見直し実施を行うとともに、職員一人ひとりの職能向上も視野に、今後増加の見込まれる若手職員の育成にもつながるよう、与えられた分掌に積極的に挑戦していく（失敗が成長の糧にできる）風土も高められるようにしていく。</li> <li>◆学校は児童が喜びや楽しさを感じることができれば、自然と保護者も学校に対して同じ感情</li> </ul>

	<p>を持つことができる。多くの時間を費やす授業はもちろんのこと、生活場面でも担任と学級の児童との人間関係作りに努めるとともに、学年内で統一した歩調で対応していくことができるよう、学年経営研究会の開催は継続し、また、学年間で指導の方向性がブレることのないよう、近隣学年や全校での情報交換を密にするよう努める。</p>
<b>Ⅲ</b>	<b>学習指導について（保護者用アンケート等も含めて）</b>
達成状況	<p>○肯定的回答（A・B）の平均が96.4%（R5 94.2%）。3つの設問で100%であり、より良い授業を目指し、教職員一人一人が努力を重ねていると言えるが、7設問中6問でB回答が最も高いという結果になっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「あなたは、宿題や家庭学習に対する指導を行っている。」のA回答の割合は59.5%と、他項目のA回答と比べ最も高い結果となっている。</li> <li>・「あなたは、ICTを効果的に活用した授業を行っている。」の設問は、否定的回答（C）が3人（R5 8人）、「あなたは、協働的な学びを取り入れた授業を行なっている。」の設問は、否定的回答（C）が2人（R5 5人）と昨年に比べ改善傾向が見られる。</li> </ul> <p><b>【児童】</b> ※「（%）」の数値は、肯定的回答（A・B）の割合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「先生はよく勉強を教えてくださいか。」、肯定的回答（A・B）が99.0%（R5 99.1%）A回答84.3%、B回答14.8%であり、とても評価が高い。</li> <li>・「学校の授業は楽しいですか。」は、肯定的回答（A・B）が87.8%（R5 90.6%）だが、12.2%の児童が否定的回答（C・D）となっている。</li> <li>・「国語の授業の内容はわかりますか。」は、95.8%（R5 96.5%）と肯定的回答（A・B）の割合が高い。</li> <li>・「算数の授業の内容はわかりますか。」は、92.9%（R5 96.1%）と肯定的回答（A・B）の割合が高い。</li> <li>・「人前でしっかりと自分の意見を言うことができますか。」（75.7%）、「授業（勉強）でわからないことがあったら、先生に聞いていますか。」（79.5%）は、他の設問に比べ肯定的回答（A・B）の割合が低い。</li> </ul> <p><b>【保護者】</b> ※「（%）」の数値は、肯定的回答（A・B）の割合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校は熱心に授業に取り組んでいると思う。」90.4%（R5 91.5%）、「お子さんは、授業の内容がわかっていると思う。」84.4%（R5 86.9%）と概ね良好な評価だが、指導の実際とその結果に若干の乖離が見られる。</li> </ul> <p><b>【児童】【保護者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「（児童の設問）クロームブックを使うと授業がよりわかったり、もっと学びたいと思ったりしますか。」91.1%（R5 94.5%）「（保護者の設問）クロームブックは、学習意欲や学力の向上に役立っていると思う。」84.8%（R5 84.4%）と概ね良好な評価である。</li> <li>・「（保護者の設問）お子さんは、宿題（課題）を忘れずにしていますか。」94.1%（R5 96.0%）「（児童の回答）宿題を忘れずにしていますか。」92.5%（R5 94.1%）の設問は、肯定的回答（A・B）の割合が高いが、「お子さんは、宿題の他にも家庭で自主学習をしていますか。」41.7%（R5 48.3%）の設問は、肯定的回答の割合が半数を下回っているとともに、下降傾向が強い。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆職員の学習指導は、保護者、児童からも熱心な指導として好意的に受け止められていることから、今後も指導の意欲は継続して持ち続けたい。一方で、児童は授業の内容がわかると回答していても、保護者がそう捉えていないことから、学びの全体を見ることのできる学習者自身である児童と、主に結果から学びを見とる保護者との間での違いが現れているのではないかと考える。意見を述べたりわからないことを聞いたりする自己表現に課題があることも踏まえ、対話的で協働的な学びを中心とした子供主体となる授業への質的転換を進め、それに伴う学びの見取りの変化の必要性（数値化されない部分の学力の重要性）の保護者への啓発にも努めることで、新たな学力観に基づく令和の日本型教育の推進を図る。</li> <li>◆校内研究を中心に、ICTを効果的に活用した授業や家庭学習での実践を今後も継続してい</li> </ul>

	<p>く。また、学びのデジタルポートフォリオを積極的に作成し、児童の学びの意欲の喚起継続に生かすとともに、学びの結果だけでなくその過程も家庭と共有できるようにしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域人材（保護者も含む）の活用を更に進め、そうした取組の様子を学校ホームページ等で積極的に周知することで、地域も巻き込んだ本校の学びの姿を形成していくよう努める。</li> <li>◆毎年、年度始めに、家庭学習の大切さとポイントを示した「家庭学習の手引き」を全家庭に配付している。今後もこの取組を継続し、家庭学習について、学校と家庭が連携して支援していく。</li> </ul>
--	--

**IV 生徒指導について（保護者用アンケート等も含めて）**

達成状況	<p>○肯定的回答（A・B）の割合は、95.3%（R5 95.1%）である。各担任が、それぞれの学級、学年の児童に対し、熱心に生徒指導に取り組んでおり、その結果、大半の児童が落ち着いた雰囲気の中で学校生活ができていけると言える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「あなたは、キャリア教育（キャリア・パスポートの活用、進路指導など）を児童の実態に応じて行っている。」の設問は、否定的回答(C)が8人（Dは0人）と、他の設問よりも評価が低い。</li> <li>・「あなたはの学校は、生徒指導上の課題について、全教職員の共通理解の下、対応している。」の設問は、否定的回答(C)が2人（Dは0人）いる。</li> </ul> <p>&lt;将来の夢や希望&gt; ※「（%）」の数值は、肯定的回答（A・B）の割合  <b>【保護者】</b>「お子さんは将来の夢や希望をもっていますか。」73.2%（R5 73.0%）  <b>【児童】</b>「将来の夢や希望をもっていますか。」89.9%（R5 86.7%）</p> <p>&lt;規範意識&gt; ※「（%）」の数值は、肯定的回答（A・B）の割合  <b>【教職員】</b>「あなたは、児童の規範意識をはぐくむ指導に取り組んでいる。」100%（R5 95.5%）  <b>【保護者】</b>「学校は、子ども達の間違った行動などに対して、指導していると思う。」82.0%（R5 85.9%）  <b>【児童】</b>「学校のきまりや約束ごとを守っていますか。」94.0%（R5 96.6%）</p> <p>&lt;教師と保護者及び児童の信頼関係&gt; ※「（%）」の数值は、肯定的回答（A・B）の割合  <b>【教職員】</b>「あなたは、児童理解のためにコミュニケーションを図っている。（対児童生徒）」100%（R5 97.9%）  <b>【保護者】</b>「お子さんのことで、相談できる先生がいますか。（いる）」70.0%（R5 72.7%）  <b>【児童】</b>「こまったことがあったら、相談できる先生がいますか。（いる）」80.8%（R5 81.2%）</p>
------	---

改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆将来の夢や希望について微増ではあるが保護者、児童ともに数値が上昇している。世相がそうでなくとも、身近な大人が夢や希望を語ることは児童の中に形成される大人への憧れに大きく影響する。夢や希望を語れる大人の一人として児童に接することを心がけたい。</li> <li>◆個々の職員が児童との絆づくりを今後も大切にしつつ、日常の見取りやきめ細かな指導・支援を行うことで、いじめ・不登校を生み出さない環境作りに努める。</li> <li>◆職員が連携した生徒指導にあたれるよう、日々の情報共有や課題に対する学年内での連携強化を図るとともに、生徒指導委員会の機能的運営を進め、課題対応や児童への規範形成において、全職員の共通理解と協働体制の強化を図る。</li> <li>◆児童・保護者共に、担任だけでなく様々な学校職員に相談できる日頃の関係づくりに留意すると共に、そうした相談に傾聴の姿勢で適切に対応できる体制を整えていく。</li> </ul>
-----	---

V 地域との連携について	
達成状況	<p>○肯定的回答（A・B）の割合は91.9%（R5 92.3%）である。保護者・地域と連携しながら教育活動を行うよう努めていると言える。</p> <p>・「あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。」「あなたは、PTA活動に積極的に参加している。」の設問は、否定的回答（C）がいずれも7人と、他の設問よりも評価が低い。PTA新聞、愛のパトロール、奉仕活動の担当教職員は、PTA活動に直接関わることが多いが、担当でない教職員は、PTA活動に関わっているという意識が低いかもしれない。</p> <p style="text-align: center;">※「（%）」の数值は、肯定的回答（A・B）の割合</p> <p>【保護者】「授業参観や学校開放日などは、子どもの様子を知る機会になっている。」 95.3%（R5 97.0%）</p> <p>「PTA活動に参加していますか。」44.4%（R5 43.5%）</p> <p>PTA最大の行事である「ふるさとの一夜」では、多数の保護者ボランティアの協力を得て開催することができた。役員の数が少ない中で、活動の活性化を図るにはボランティアの存在を欠くことが出来ない。今後も、PTA活動は役員だけではなく全保護者の活動であるという認識を普及していく必要があると思われる。</p> <p>&lt;広報活動&gt; ※「（%）」の数值は、肯定的回答（A・B）の割合</p> <p>【教職員】「あなたの学校は、学校の教育活動について、たよりやホームページを通して保護者や地域に広報している。」100%（R5 97.8%）</p> <p>【保護者】「学校（学年・学級）だより、ホームページなどから教育活動の様子を知ることができる。」89.5%（R5 87.9%）</p> <p>&lt;保護者・地域の声&gt; ※「（%）」の数值は、肯定的回答（A・B）の割合</p> <p>【教職員】「あなたは、保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。」95.1%（R5 97.8%）</p> <p>【保護者】「学校は、保護者・地域住民からの声に耳を傾けていると思う。」 77.4%（R5 77.1%）（E回答&lt;わからない&gt;11.4% R5 13.0%）</p>
改善策	<p>◆地域との連携強化にむけて、今年度から学校運営協議会の承認を得て学校だよりの地域回覧を始めている。学校での教育活動に対して関心を持ってもらい、学校からだけでなく地域からも学校への協力を能動的に行ってもらえるよう、今後も情報発信に努める。</p> <p>◆学校からの情報提供や保護者や地域住民の意見や要望に対する学校の対応状況については、微増ながらも肯定的回答が増えていること、また、分からないという回答が減っていることは良好な結果である。今後も、日頃のコミュニケーションを大切にし、地域や保護者に対して開かれた学校に資する取組（情報を発信や収集）を通じて、相互の信頼関係を築く努力を継続していく。</p> <p>◆PTA活動はその名の通り、学校職員も保護者も活動の主体であり、子どもにとってより良い環境にするための活動であるということの啓発に努め、積極的に活動に協力していく雰囲気作り、環境作りに努める。</p>
VI 学校の特徴に関して	
達成状況	<p>○肯定的回答（A・B）の割合は100%（R5 99.2%）である。「学校の特徴〔児童会活動、心の教育、みどりの時間（全校集会）〕」について、教職員全体の共通理解が図られ、教育活動が行われていると言える。</p>

	<p>&lt;心の教育&gt; ※「 ( % )」の数値は、肯定的回答 (A・B) の割合</p> <p>【教職員】「あなたの学校は、心の教育が充実したものになるよう、努めている。」 100% (R5 100%)</p> <p>【保護者】「学校は、心の教育に力を入れて取り組んでいると思う。」 55.5% (R5 59.3%) (E回答&lt;わからない&gt; 25.4% R5 23.7%)</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆児童会活動やみどりの時間の取組については、今後も充実した活動ができるよう、児童会主任、音楽主任、道徳主任を中心に活動の価値を高められる工夫を盛り込みながら、活動の活性化に努める。</li> <li>◆毎年、道徳授業参観やみどりの時間に行われる「ちょっといい話（教職員が児童の生活の中で見つけた {いい話} を紹介するコーナー）」を、今後も継続して取り組んでいく。特に、「ちょっといい話」については、この活動自体の道徳的価値がより高められるようより良い運営の仕方を検討する。</li> <li>◆学校としては心の教育に力を入れて取り組んでいるものの、その姿が保護者に伝わっていないことは大きな課題である。道徳の授業の様子や日頃の心の教育の取組等、たよりやホームページ等で保護者に伝えていくよう努める。</li> <li>◆今後も、児童が益々生き生きとした学校生活を送れるように、全職員で協力して、本校の特色ある教育活動を推進していく。</li> </ul>
<b>Ⅶ 創甲斐教育について</b>	
達成状況	<p>○肯定的回答 (A・B) の割合は96.6% (R5 98.4%) である。「創甲斐教育」について、教職員全体の共通理解が図られ、教育活動が行われていると言える。</p> <p>&lt;読書活動&gt; ※「 ( % )」の数値は、肯定的回答 (A・B) の割合</p> <p>【教職員】「あなたは、児童が積極的に読書活動に取り組むよう、指導に努めている。」 92.3% (R5 100%)</p> <p>【保護者】「お子さんと読書したり、読書するように言ったりしていますか。」 42.3% (R5 47.8%)</p> <p>【児童】「朝読書をがんばっていますか。」 80.1% (R5 94.8%)</p> <p>&lt;表現力&gt; ※「 ( % )」の数値は、肯定的回答 (A・B) の割合</p> <p>【教職員】「あなたは、様々な場面、活動において、児童の表現力を高める取組を行っている。」 100% (R5 100%)</p> <p>【児童】「人前でしっかりと自分の意見が言えますか。」 75.7% (R5 77.1%)</p> <p>&lt;体力向上&gt; ※「 ( % )」の数値は、肯定的回答 (A・B) の割合</p> <p>【教職員】「あなたは、児童の体力向上や健康教育・食育の推進に努めている。」 97.5% (R5 95.2%)</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆児童の朝読書の評価低下は、昨年度からの時程変更の影響も考えられる。定期的な読書の時間の確保の他に、図書だよりの発行、読書週間での「おすすめの本の紹介」等の取組を継続して行うと共に、より一層の「家読」の啓発や読み聞かせボランティアの保護者招聘に努める。</li> <li>◆ICTの活用が推進される中で、会話によるコミュニケーションの機会がこれまでと比べ減じているという実態もあるかもしれない。正誤にかかわらず自分の意見を表現できる能力はこれからの社会において必須とも言える。今後も、学校生活全般において、自己表現を価値づける取組を日常的に取り入れていき、表現力の育成を図っていく。</li> <li>◆今後も県の一校一実践の取組を柱に、体育や保健の授業、縦割り班での遊び、定期的な保健だより・給食だよりの発行等を行い、児童の健康と食に対する意識の向上に努める。</li> </ul>

### 3 まとめ

#### <成 果>

- ・教職員自己評価，保護者アンケート，児童アンケートとも，全体的に肯定的に評価されており，学校教育目標，学校経営目標を達成できたのではないかと考える。
- ・「わからない」と回答する保護者の割合が昨年に比べ減っている項目があることは，非常に大切な点である。学校での活動の様子を保護者が知る機会，子ども達から直接聞くこと，学校での活動への参加，学校からの情報発信，地域からの情報などが挙げられる。学校だよりの地域回覧も始まり，学校からの情報発信はこれまでよりも活発に行われているので，学校の現状を正しく認知してもらえよう，今後も丁寧な情報発信を心がけたい。

#### <課 題>

- ・昨年に引き続き，否定的評価であった項目については，特に改善策を徹底し，改善に努めたい。教職員，児童，保護者の3者で，評価が異なるものもあった。特に教職員と児童で評価の異なる項目については，優先的に改善の必要なものと認識できる。指導の方向性に誤りがあれば改める姿勢，誤りがなければ徹底して理解を促す姿勢を大切にして，教育のプロとして，日々の教育活動に邁進したい。
- ・保護者評価は，全体的にB評価が多く，C・Dなどの否定的評価が増える傾向にあるが，成果にも述べたとおり，E評価（わからない）が減少していることから，否定的評価も改善の機会を与えられていると好意的に捉え，改善に努めていきたい。
- ・評価項目はその一つ一つが教職員に課せられた目標だと捉えることができる。3者の評価が同じ傾向を示すことが重要であり，且つ肯定的評価がその全てで表れている時，真に充実した教育活動を行っていると評価できるであろう。そうした評価につながるよう，学校，保護者，地域が連携しながら，これまで以上に豊かな教育活動を推進していきたい。